

## 亜泰集団、通化でセメントなど生産=10億元投じ-吉林省

3日付の中国紙・中国証券報（B1面、C11面）によると、上海証取に上場する吉林亜泰集団（本社吉林省長春市）は2日同省通化市当局と同地でセメントなどを生産することで合意した総投資額は10億元を見込み、石膏ボードや医薬品、不動産事業も手掛けるという。

また、これに合わせ、同地最大のセメントメーカー、通化特種水泥の株式約50.8%を買い取り、傘下に収める。所要額は7274万元。通化特種水泥は民営企業で、セメントの年産規模は120万トン。2008年の売り上げは1億8881万元だったが、4346万元の赤字を計上した。（時事）



### (67) 中国は「安い」か

#### 情報セキュリティ対策

野村綜研(上海)咨询有限公司

中国進出といえば、従来はコストダウンが主な目的だった。とにかく人件費が安く、機械を購入するよりも工員を雇ったほうがはるかに安いといわれていて、事実そうだった。また物価も安いことから、「中国=安い」というイメージが定着している。IT業界でもオフショア開発で注目され、また联想（レノボ）などのハードメーカーも知名度を上げたことから、より一層「安い中国」が強調されてきた。

しかし今の中国は以前ほど安くない。人件費は跳ね上がり、ビジネスの拡大とともに管理コストも増大している。にもかかわらず「安い中国」のイメージは払しょくできずにいる。

中国は北部と南部で通信キャリアが異なるため、南北でのインターネット通信にボトルネックが潜在する。また日本との回線が細いため、インターネットで日本のサイトを見る際に遅いことも有名である。日本で通信サービスが安くなったのは複数社間での競争によるところが大きい。ところが中国は通信事業を国が行っているため、キャリアが値下げすることはほとんどない。物価が安い中国であれば回線費も安いのではという期待は分かるが残念ながら日本とあまり変わらないのである。ルーターやサーバーなどの機器も日本で買う方が安い物もある。コストダウンできるものとできないものが混在し、またその差が大きいことが混乱を助長している。

人件費に関しても、PMPやCCIEなどの資格を有する優秀な人材が多くおり、それらの人材は決して安くない。業務経験が豊富で語学にたけた管理者も多い。その中で「安い中国」だけが求められる結果、人件費が削減され、優秀な人材に必要な仕事や正当な評価がもたらされなければ、品質の維持は難しい。

情報セキュリティ対策にとって重要な人・物・テクノロジーに必要な以上の「安さ」を求めてしまつては、重要な品質を損なうことになりかねない。もちろん、継続できない無理な投資は必要ない。必要なものを過不足なく実施することで、安定したセキュリティ環境を実現することが重要である。

（NRIセキュアテクノロジーズ 工藤眞一）

PMP：システム開発におけるプロジェクトマネジメントに関する国際資格。

CCIE：ネットワーク機器大手シスコシステムズによる技術者認定資格の一つ。同社の認定資格の中では最高位。